

---

# その赤い目と鎖と

MMM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

その赤い目と鎖と

### 【コード】

N6836Y

### 【作者名】

MMM

### 【あらすじ】

目を覚ますと記憶を失った破面の少女。記憶を取り戻そうとする途中、ある死神に出会う

よろしくお願いします。不定期かも知れませんががんばっていきたいと思います。誰でも感想送れます。

## 目次と記号(前書き)

よろしく願います。

## 目覚めと記憶

私が目を開けて最初に視界の中に入ってきたのは空に浮かぶ丸い月だった。

空は闇に覆われて白く輝く月以外は何もかもが排除されている。ロマンチックの口も含まれていない寂しい空。

そんな空に向かって私は多分寝ている間に入ってきたと思う口に入っていた砂を吐き出す。目覚めから気持ち悪い気分になってしまった。

それに全身裸の状態で砂漠の上に横たわっているのでちくちくと少し背中が痛かった。

横たわっている体を上半身起こすと、

「うえ……」

と口を押さえて嘔吐を抑える。

少しの間、嘔吐を抑えて少し気分が良くなると手を口から離して気分をもう少しよくするためにに空気を吸い込んで深呼吸をした。

吸い込んだ空気は何の不純物もなく、冷たさを持った純粋な気体だった。

そしてやっと口の中から砂の味が消えて気分が良くなると周りの景色を見る。

周りには白い砂で出来た砂漠が一面ずっと広がっておりそこから枯れた小さな木や岩がぽつんぽつんとあるぐらいで殺風景だった。ただその景色に含まれる白と黒のコントラストが綺麗に見えた。

私は少しの間、その美しさに見とれていたが我に返って考えてみる。

「……どう……？」

この場所に記憶がない。

それよりもうつとりとこの場所で目が覚める前からの記憶がない。

寝る前に何をやっていったのか、なんでこんな場所にいるとかそういうものが私の頭の中にない。

私は少し混乱する。

なぜ記憶がないのか、考えても考えても推測は出てくるが理由は浮かび上がらない。記憶がないのだから思い出せないことは当たり前だった。でもそんな無意味なことをしてみる。

そうやって何かをしていることによつてやったと言う概念を感じさせて不安を消そうと努力するがそんな努力は報われなかった。

意味のないことをしても時間が経つだけなので記憶がないという不安を抱え込みながら白い砂漠の上を歩いてみることにした。

少し歩くと汚い、少し大きな布きれがあつたのでその布きれを体に纏った。汚いのは嫌だつたけどこれしか体を隠すものがなかったから仕方なく我慢していた。

歩く、と言つても何かないかな、なんて思いながら人影や生き物の姿を見つけようとしたがだめだった。

こんなにも広く荒涼とした砂漠で人に会ったら幸運だと思う。

それでもやることがないのでずっと目を凝らして探してみると不意に後ろからじりじりと砂にかすつた音がした。

一瞬風が吹いたのかな、と思つたけどその考えはすぐに消えた。

目が覚めた時から風は吹いていなかった。突風だったら多分私の方にも来るはず。

立ち止まって考えている間も後ろから音が聞こえる。

少し様子を見ようとまた、今度は少し歩くスピードを速くして歩いてみると、音もまた少しだけ聞こえるペースが速くなった。

それがもう何十分と続き、後ろに振り向く。

結果、何もなかった。何かの足跡はあるのに何も無い。  
急に自分の周りが暗くなった。地面に写っている黒いものの頭部  
分らしいところに角みたいな影があった。  
急になぜか悪寒を感じた。怖い、と言う感情が体中を巡る。  
そして影の主は大きな雄叫びを上げ、私は耳をふさいだ。  
後ろを振り向くとそこには。

胸のところに孔がすっぽりと空いて、角が生えている化  
け物がいた。

なに、この化け物……！  
怖くなってそれしか考えられず思考回路がショートする。そして  
私は意識がなくなった。

それから本日二回目の目覚め。  
辺り一面に赤い液体が白い砂の間をかくぐって染めている。  
自分の口には鉄の味がして、右手には真っ赤な液体が下にぼたぼ  
たと流れている。

化け物は砂漠の上に血を流しながら倒れていた。  
纏ってる布は端のところが少し赤に染まっている。  
自分の心臓の鼓動が普段より速く鼓動していた。  
左手で顔に触れると血が、血が付いていた。  
何が起こったのか分からない。私は何をしたのか、なぜこの化け  
物は血を流して倒れているのか、何もかも分からない。  
少し落ち着こうと目を閉じて深呼吸。そして少し落ち着いてゆっ  
くり目蓋をあげる。

それでもあまり血を見るのは嫌だった。これでもまた意識が吹っ  
飛ばないように無理矢理意識を立たせている。

この化け物はもう息を引き取っている。もうこれで怖い思いはないと思うが、それでもなぜか罪悪感を感じた。

立って周りを見てみると少し離れたところに何か、空間が裂けて出来たような穴があった。

そこに近づいてみると奥から何か街の風景が見える。

私は何かに導かれるように足を動かさし、その穴に入って行った。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6836y/>

---

その赤い目と鎖と

2011年11月20日19時34分発行